



小児科 部長 岡本 吉生

子どもの心臓病を診る！

100人に1人心臓に何らかの異常を有する先天性心疾患の赤ちゃんが生まれてきます。その数は毎年全国で10000人ほどで、大人の循環器疾患と比べて圧倒的に少ない数ですが決して無視はできない数でもあります。その5-6割は外科手術を含めた何らかの治療を要するとされます。子どもでも、不整脈、心筋症や虚血性心疾患などを含む、生まれたあとに発症する心臓の病気である後天性心疾患もあります。診断や治療技術などの向上にて、以前であれば亡くなっていた子どもの半分以上は助かる時代となりました。

子どもの心臓疾患のすべてを診る分野が小児循環器分野ですが、この分野を診ることができる医師は非常に少ないのも現実です。例えば専門医の数で比較すると、香川県では循環器専門医139名vs小児循環器専門医4名(2017年各学会公表)です。また治療に関して言えば、外科的治療



などはかなりの専門的かつ高度な技術を要するため一つの施設ですべての治療が完結するわけではないことがあります。一方で住んでいる地域や系列大学などの枠組み等問題とならず、常に全国レベルの最先端の治療を受けることができるのもこの分野の良さとも考えられます。



当院小児科では小児循環器専門医(循環器専門医でもある)による診療を行っております。顔見知りでもある各分野の全国のプロフェッショナルと常にコンサルトなどしながら必要によっては最高レベルの治療が可能な施設への紹介も行い、国内最高レベルの医療を提供することに努めております。どうかお気軽にご連絡ないしご紹介頂ければと思います。



大人になった先天性心疾患の方も子供とほぼ並ぶ数となってきたといわれています。成人先天性心疾患といわれているこの分野もどんどん発展しておりますが、大人の心臓病に関わる循環器内科だけでなく多科にわたる診療も必要なことも多く一筋縄ではいかなく苦勞される方も多いといわれています。この分野の診療についても我々小児循環器分野を診るものの使命と考えております。ぜひ年齢にかかわらず、まずは小児科へもご相談ないしご紹介頂ければ嬉しく思います。

職場紹介 地域連携室

当院は専門医療、救急医療、癌診療の3つの診療を柱として、地域に根ざした高機能医療に特化した病院を目指し、地域の医療機関の皆様の期待に応えるべく努力しています。その点を踏まえて、地域連携室は病院と診療所の機能分化を図り、患者さんにより良い医療の提供を行うべく、地域の医療機関の皆様との連携を推進することを使命としています。

前方部門では地域の先生方から当院への紹介・FAX予約や、当院から他院への紹介予約を担当しています。また、K-MIXを活用した診療情報の公開を行ない、医療セミナーや公開講座を開催して地域の方々へ情報発信しています。セカンドオピニオンへの対応、紹介状の返書一元管理を行っております。広報誌「れんけい」の発行や当院の診療内容・医療サービスの質などを紹介した冊子「診療連携のご案内」の発行にも携わっております。

後方部門では、看護師、保健師、社会福祉士が専門知識を活かしつつ、退院支援や各種の相談業務などを協力して担当しております。退院支援は、患者個々の状態に応じた療養先の選択が出来るよう、主治医他、医療スタッフと連携して入院前から「退院支援システム」として取り組んでおります。介護や地域支援サービスへの連携も重要です。相談業務は医療費や社会保険制度の相談、がん相談支援、肝炎相談支援など多岐にわたっております。臨床心理士は心の問題にかかわる「こころの専門家」として入院患者を中心に心理面接を行っています。

今後、病院、診療所、施設等その機能に沿った地域完結型の医療から福祉へのシームレスな連携をよりいっそう進めていく必要があります。引き続き地域医療機関の皆様にご支援いただけるよう努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。



骨粗鬆症リエゾンマネージャーの



外来看護師 植松 聖美



骨粗鬆症リエゾンマネージャーは骨粗鬆症予防治療についての専門的な知識を持ち、診療の場においてコーディネーター的な役割をします。骨粗鬆症のアプローチには最初の骨折への対応、骨折リスクの評価、新たな骨折の予防などを多職種で連携を取りその役割を担います。具体的には、疾患の理解、お薬の導入または継続、食事による栄養の改善、個々に応じたりハビリや転倒リスク評価を行い、二次骨折予防と繋がります。また、骨折した患者さんのご家族への骨粗鬆症治療の必要性についての啓発運動も行っています。

当院では、2016年8月より骨粗鬆症リエゾンサービスを開始しました。同時に月1回骨粗鬆症リエゾンサービスチーム会を開催し、活動報告や症例検討を行っています。患者さんの個々のニーズに応じて二次骨折予防のため骨粗鬆症治療の継続を目指して関わっていききたいと思います。

安全に食べるために～とろみについて～

嚥下障害のある患者さんの水分摂取時に、とろみをつけるのは、なぜなのでしょう？

嚥下反射(ゴクンと飲み込むこと)が起こると、のどでは気管の入り口の蓋が閉まり、食べた物が食道へ入るような仕組みになっていますが、お茶、ジュースや汁物といったさらさらの液体は、他の食材に比べて、のどを流れる速さが速いため、嚥下反射がゆっくり起こる患者さんでは、気管の入り口の蓋が閉まる前にのどに流れこみ気管に入ってしまう(誤嚥する)事があります。そのような場合、水分にとろみをつけて、水分がのどを流れる速さを遅らせると、うまく飲めるようになります。とろみが濃いほど、のどを流れる速さは遅くなりますが、あまり濃くしすぎると、のどにはりつき残りやすくなるため注意が必要です。当院では、とろみを濃いとろみ・中間のとろみ・薄いとろみの3段階に分類し、患者さんに応じて使い分けています。たいていのとろみ剤の外袋には、この3段階のとろみをつけるための分量が記載されています。

特に、タンパク質や酸性のもの(甘いものを含めて)を誤嚥すると誤嚥性肺炎を発症しやすいと言われており、味噌汁を誤嚥して肺炎を発症する方もおられるため、最近は、とろみのついた味噌汁も市販されています。また、粥は、唾液中に含まれるデンプン分解酵素の α -アミラーゼが、スプーンなどを介して粥に作用し、だんだん離水してすることがあります。そのため、粥にもとろみ剤を添加した方が良い場合もあり、当院では全粥にとろみ剤を混ぜたものを「とろみ粥」と呼び、提供しています。

以上のような理由で、当院では、嚥下障害のある患者さんには、水分や粥にとろみをつけ、なるべく誤嚥しないよう努めながら食事をすすめております。このような患者さんが皆様の施設へ転院してこられる事もあると思いますが、引き続きの御加療をどうかよろしくお願い申し上げます。



中央NEWS

高校生の医師体験講座を開きました

消化器・一般外科 主任部長 大橋龍一郎・総務企画課

8月3日(木)、第7回医師体験講座を開催し、高校生12名が参加しました。

内容は、体験学習(手術室での鶏肉を使った手術体験、病院食の試食、BLS体験、採血・気管内挿管・内視鏡のシミュレーション)、見学(病棟、中央検査部、病理部、放射線部、薬剤部)、医師との座談会、でした。

参加した高校生は、慣れない環境から初めはとても緊張していましたが、当院の医師やコメディカルから優しく丁寧な指導、説明をうけて次第にほぐれていき、体験講座に集中するようになりました。

特に最後の医師との座談会においては、医師を目指したきっかけや仕事のやりがいなど、なかなか聞くことのでき



ない医師の本音を聞くことができ、医師を目指す決意を新たにしている高校生もいました。

参加した高校生の医療の道に進みたいという気持ちを少しでも後押しできていたらうれしく思います。

中央NEWS

医療セミナーを開催しました

9/21
(木)

9月21日(木)、本院講堂において「胃がん治療の最前線」と題して、医療セミナーを開催しました。

講演は消化器・一般外科の田中部長でした。参加者は医師等52名で、院外からも16名の先生方にご出席いただきました。

今後も、当院における医療を紹介するため、興味ある様々なテーマを取り上げて、皆様のお役にたつ医療セミナーを積極的に開催していく予定です。ぜひご参加ください。



～行事食をご存知ですか～

病院栄養士の仕事

栄養部 技師長 加村 晴美

当院では給食業務を委託していますが、献立を作成するまでは病院栄養士の仕事です。献立は4週間のサイクルメニューとなっており、3か月ごとにシーズンメニューを検討しています。また、お正月、ひな祭りなどの行事の日には特別なメニューを提供しています。

今年は委託会社と協議して、土用丑の日に昨年度高価で提供できなかった鰻丼を復活して提供できました。エネルギーやたんぱく質・塩分など限られた栄養価の範囲内でのメニューですので、入院している皆さんに満足していただけるものは難しいですが、少しでも特別な食事となり、楽しんでいただけることを期待して実施しております。ただ、行事食は年間19日の実施ですので、当たると幸運？ですね。食事と同時に提供している行事食カードも好評で、患者さんから感想を書いたお手紙をいただくこともあります。

今年新しく入った行事は、まず、8月4日「栄養の日」です。8(エイト)と4(よん)で「えいよう」です。栄養を楽しむ生活を応援する日です。(公社)日本栄養士会が主催する行事に参加したことにより、その日の給食にゴールドキウイと野菜ジュースを活用することができました。もう一つの新しい試みとしては、地産地消があります。香川県漁連の協力により、ハモを使った料理を提供予定です。今後をご期待ください。



お通じにまつわるうんちく話(その1)

消化器内科 部長 田中 盛富

小学生のあいだでは、「うんこ漢字ドリル」が話題のようですが、医師のあいだでは、この秋に新しく刊行される「慢性便秘診療ガイドライン」が話題のようです。最近、新しい便秘のお薬が発売されたこともあり、学会などでも便秘がにわかに注目を集めていますが、便秘は、よくわかっているようで、実はまだよくわかっていないことも多いのです。

香川県立中央病院では、これにさきがけ、2015年末に便通異常外来を始め、便秘のみならず下痢や便失禁(便もれ)などのお通じの問題で困っている方を診察しています。

これから、この「れんけい」を通して、食物繊維、プロバイオティクスといったお通じに関する話題や、便秘に対する検査、さまざまな治療法などお通じに関する情報提供を行いたいと考えています。

「うんこ」をきっかけに小学生が漢字を勉強し始めるように、このコラムを通して便秘や下痢など、お通じのトラブルへの理解が進むことを願っています。



トイレのかがわん

肝臓病患者会交流会を開催します

●日時：平成29年10月29日(日)

10:00~12:00

●場所：香川県立中央病院 1 階講堂

●内容：琴の演奏や当院肝臓内科高口医師による講演会を行います。患者会会員以外の方々もお気軽にご参加下さい。(参加費無料。予約不要。駐車代はご負担ください。)



医師の人事異動

転入→

(9月1日付)



松尾 聡子

研修医

ハンガリー国立セゲド大学出身
(2015年卒)

趣味／読書、音楽

あと半年で初期研修が終わるので、3年目に向けてしっかりたくさんを経験してこれからに生かしていきたいと思っています。

転出→

(9月30日付)

●藤本 将平(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
●三島 桜子(産婦人科)